

年間第二十二主日

2014.8.31

マタイ 16・21-27

今日の福音は、先週のペトロの信仰告白に続く、マタイ 16 章の 21 節から始まっています。「あなたがたは、わたしのことを何者だと言うのか」というイエスの問いかけに対して、「あなたはメシア、生ける神の子です」とペトロは応えたのでした。このペトロの信仰宣言を受けて、イエスはペトロを礎として、その上にご自分の教会を建てると約束してくださったのです。

私たちがカトリック信者として招き入れられた教会は、ペトロのイエスに対する信仰を受け継ぐ教会です。私たちも洗礼を受けることによって、教会に受け継がれてきた信仰を受け入れて、ペトロと同じようにイエスに対して、「あなたはメシア・私たちの救い主、生ける神の子です」との信仰を宣言する者となりました。「あなたは幸いだ。あなたにこのことを示したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」という、先週聴いたイエスのペトロに対することばが示しているように、私たち一人ひとりにとっても、このような信仰に導き入れられたこと自体が、神の恵みによることなのです。

「あなたは幸いだ。あなたにこのことを示したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」とイエスが言われた時、ペトロはこのイエスのことばをどこまで理解できていたのでしょうか。そして、イエスがペトロを礎として建てると約束された教会に導かれて、洗礼を受け、イエスを「神の子、メシア・私たちの救い主」と信じる者たちとされた私たちも、どこまで、このイエスのことばを理解できていると言えるのでしょうか。

何故このように言うかと言えば、ペトロを礎とする教会が、そして、その教会において、「あなたは神の子、メシア・私たちの救い主」、とペトロと同じ信仰告白する私たちが信じるイエスは、十字架に架けられたイエスだからです。そればかりではなく、今日の福音のイエスのことばが示しているように、十字架に架けられたイエスは、イエスを信じる者たちを、ご自分がたどられた十字架の道に従うよう求めるイエスだからです。そのようなイエスに対して、「あなたは神の子、メシア・私たちの救い主」と私たちが本当に信じているとするなら、それは、イエスが言われるように、天の父である神が私たちにそのことを示してくださらなければ、到底受け入れることが出来ないことです。私たちが信じる信仰は、十字架のイエスにおいて、私たちが真のいのちに導き入れようとしておられる神の恵みの招きに応えようとする信仰です。私たちはそのような信仰を、人間である私たちたちの判断と決断によって自分のものとする事は出来ません。それにもかかわらず、私たちが十字架に架けられたイエスを信

じているとするなら、それは神が私たちの中で行ってくださること、すなわち神の恵みのみわざそのものであるとしか言えないと思います。それゆえに、私たちのカトリック信者としての信仰そのものが、神が私たちを開き、示してくださった最も大きな恵みなのです。

今日の福音は、「このときから、イエスはご自分が必ずエルサレムに行つて、・・多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっていると、弟子たちに打ち明け始められた」というふうに始まっています。始めにも申しましたように、今日の福音の箇所は、先週のペトロの信仰告白に続く箇所です。そのように受け止めるなら、今日の福音の始めの「このときから」という「この時」とは、教会の礎とされたペトロが、弟子たちを代表して、「あなたはメシア、生きる神の子です」とイエスへの信仰を宣言した、あの時からということになります。ペトロにおいてそうであったように、私たちの中にイエスへの信仰が成熟するのを待って、イエスは、ご自分がどのようにして、私たちのメシア、救い主となられるのかということをお明らかにしてくださるのです。

「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」とペトロが思わず叫んだように、私たちにとっても、私たちが信じる私たちの救い主イエスが十字架に架けられて殺されるイエスであるということは受け入れがたいことです。しかも、十字架の道を行かれるイエスは、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と呼びかけておられるイエスです。そのようなイエスに対して、「あなたこそメシア、私たちの救い主」と信じる信仰が、私たちのカトリック信者としての信仰です。そのような信仰が私たちの中に生きていけば、それは、先ほども述べたように、私たちがペトロを礎としてイエスがお建てになった教会と出会うことによって、神が私たちのうちに開いてくださった神の恵みによることなのです。何故なら、私たちの人間的な思いによっては、十字架に架けられて殺されることになっているイエス、私たちをその十字架への歩みに従うように求めるイエスを、私たちのメシア・救い主として受け入れることは不可能と思われるからです。

「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」。私たちが信じる十字架のイエスが、私たちを招き入れようとしておられる信仰の世界、神の恵みの世界に眼が開かれ、イエスの十字架の道に従うためには、私たちもペトロに向けられたイエスのこの厳しいことばに打たれる必要があります。この厳しいおことばに打ちのめされ、そこから立ち上がって、なおイエスの後についてゆこうとする時、イエスが私たちを招き入れようとしておられる、私たちの信仰の世界が開かれるのです。

「わたしについて来たい者は自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」。イエスのこの招きのことばが、何故、私たちにとって、神の大きい恵みによる救いへの招きとなるのでしょうか。

私たちがこの世で味わう全ての苦しみは、このイエスのことばを受け入れることが出来る時、イエスの十字架に従う道となるからです。私たちが経験するすべての苦しみの中で、イエスをメシアと信じる者たちは、十字架に架けられて殺されたメシア・イエスが、その苦しみの中にもにいてくださることを見出すことが出来るからです。十字架に架けられたて殺されたイエスは、そのようにして私たちの世界を救ってくださったことを、十字架のイエスのおことばとして受け止めさせていただけるからです。私たちの苦みが、十字架のイエスに従うためのものであることを悟らせていただける時、私たちは自分の苦しみの渦中であって、その自分の苦しみにも意味があることを知ることが出来るからです。何よりも、その苦しみの中であって、自分が信じる十字架のイエスが、他のどんな時よりも自分の近くいてくださると受け止めることが出来るからです。そのイエスに抱かれ、そのイエスに全てを委ねることができるなら、ともにいてくださる十字架のイエスは、私たちをも、その復活のいのちに向けて連れ出してくださることを、実感を持って受け止めることが出来るからです。これが私たちの信仰です。この信仰を生きることが出来る時、私たちは、自分のいのちを救おうとする、この世に生きる私たちの全ての足搔きから解放された、真のいのちの自由を味わうことができることでしょう。この全てが、私たちがイエスへの信仰に導き入れて下さった神の恵みによることです。その恵みに感謝して、その恵みの中で生きることが出来ることを願って、今日もこのミサをささげて、私たちが信じる、十字架のイエスに力づけられたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高